

組織・業務全般の見直し（整理合理化計画）の経過等について

1. 経過

8月29日 厚生労働省独立行政法人評価委員会総会
(主な意見等)

- ドラッグ・ラグは国民にとって切実な問題であるので、より迅速な解消に努めるべき。
- 医療機器はもとより、後発医薬品、OTCについても審査の充実を図るべき。
- 専門性の高い者に機構に入っていただくよう、方針を立てて取り組むべき。
- 内部統制の強化を図るべき。

9月19日 総務省政策評価・独立行政法人評価委員会（政独委）分科会
機構の「組織・業務全般の見直し当初案」について、厚生労働省からのヒアリングを実施。
(主な意見等)

- ドラッグ・ラグの発生について、どの過程でボトルネックが発生しているかを明らかにして、そこがうまく流れるように対応策を講じるという方式で分析（クリティカルパス分析）したのであれば、その結果を示して欲しい。
- 増員だけではなく、業務の在り方を相対的にみた上で、ビジネスプロセスや申請書の簡素化の議論を行っているか。
- デバイス・ラグの問題を含め、今後の医療の発展のためには、機構として何年後にどれくらいの規模が必要と想定しているか、中期目標期間ではなく、10年単位で考えたとき、どれだけ増員が必要かを明らかにすることも重要ではないか。
- 国際的な連携、組織のクオリティや客観性を高めるため、ISOの取得等により国際的に認められるような組織力強化が必要ではないか。
- 海外へ職員を派遣し、従来の審査のやり方を見直すなどの職員育成プランも必要ではないか。

10月31日 総務省政独委委員による機構視察

2. 今後のスケジュール（予定）

- 12月中旬 総務省から提示される「勧告の方向性」を受けた見直し案について、厚生労働省独立行政法人評価委員会で審議
- 12月下旬 当機構の見直し案を含む政府全体の独立行政法人整理合理化計画について、行政改革推進本部で決定